

公文書を一元管理

松前町 来春導入へ研修開始

担当者不在でも検索OK

【松前】町は、公文書を一元管理し住民サービスの向上や情報公開などを進める「文書ファイリングシステム」導入へ向けて、作業を始めた。4月に施行された公文書管理法に呼応、道内で初めて同法に対応した規範を構築する。5日、前田一男町長が「導入宣言」を行い、全職員対象の研修がスタート。並行して文書の整理を進め、来年4月の運用開始を目指す。

(恵本俊文)

このシステムでは、一的に管理するのをや保存文書を職員が個人一め、紙のフォルダに収

めた文書を課ごとに特定のキャビネットに収納する。一元管理することで、担当者が不在でも住民の求める文書を検索することができるようになる。検索の迅速化により職員が仕事の効率化を図れる一などの利点がある。

5日の研修では、行政文書管理改善機構(東京)の広田伝一郎理事長、佐々木信雄・チーフ専門アドバイザーが文書管理の問題点

やファイリングシステム



フォルダを手にシステムを解説する広田伝一郎さん

宮島武司・町総務課
の概要などを講義した。「システムは文書を取っておく道具ではなく、取り出すことで仕事を楽にする道具」などの説明に、職員は熱心に聞き入っていた。

長は「システムと町のホームページをリンクさせ、住民が必要とする文書をネット上で検索できるようにしたい」と話しており、町民と役場との情報共有が進みそうだ。